

まとめ

2023/03/22

東北大学災害科学国際研究所

佐藤 翔輔

県の施策を踏まえた震災伝承の可能性

- 観光との接続性(4と6について)
 - 学び+遊び
 - プログラムの整理, 意味・意図のコーディネート(更新)
 - 実績の共有, ニーズのマッチング
- 継続事業へのサポートも(1)
- これは大きいCSRかも. ダウンサイジングを(3)
- 若者の活動受容: 時間とカネと社会理解
 - 教育セクターの参画
- 伝承している人の位置付け(格上げ)
 - 1当たりの予算額規模など
 - 伝承が必要なこと, すごいこと, 必須なことであることの明示化
- 修学旅行客の継続的獲得
 - 震災学習の誘致: 県内, 教育への組み込み

令和5年度のコンソーシアムの希望

- 課題解決につなげるためのアクション
 - プロジェクトの設置
 - 立ち位置ごとのできることの整理
 - 語り部, 施設, 自治体, 企業
- 連携・継続・交流
 - 支えることも
- 悲しみを踏まえて, の未来の防災教育
- たくさんの拠点があるからこそそのコンソーシアム
- 顔の見える関係性構築
 - フリートーク, 座談会. そこから生まれるひらめき
- 企業がもとめる研修とは？
 - 企業の復興プロセスの勉強
- コンソーシアムでの予算検討
- 震災伝承, とは何なのか の議論
- コンソーシアム取り組み目標(内容・時期)の明確化

活動内容：前回1月20日

- 宮城が、コンソーシアムがどうあるべきかを議論しつづける
- 震災伝承の内容整理(体系化)
- “きょうみたいな”顔合わせ
- 包括的な利用者動向の把握
 - フィジカル
 - サイバー
- 意見交換(そのテーマ)
 - 連携・協力するための仕組み
 - ひらかれた状態で、共催で
 - 課題出し・煮詰め
 - 地元の人が利用するにはどうするか？
 - 伝承者の育成方法
 - 適切な受け入れ価格

- **すべて実現したいアイデア**
- **まず、むこう3年のプランニング**
 - **できると思う**
 - **理由:9月キックオフからのキャッチボール**
 - **宮城県オリジナル**
- **30年, 100年, 1000年つづけるためにも**
- **これからもオール宮城で**